

親子で防災キャンプ 終了報告



平成28年9月24日~25日
神奈川県立愛川ふれあいの村

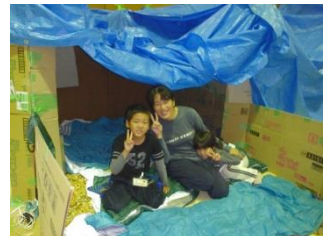
雨模様が続いた9月下旬、主催事業『親子で防災キャンプ』を開催し、16家族51名の参加者が集まりました。午前中は緊張をほぐすゲームをおこない、2日間共に過ごす班のメンバーを確認。さらに、木を使った名札作りをしました。名札は、避難所などで、迷子防止や互いの名前を呼び合う事に役立ちます。



昼食後は、防災・減災に関する有識者である、講師の『古池佳子さん』を招き、防災ゲーム『クロスロード』を体験します。「あなたは大型犬を飼っています。避難指示が出た時、一緒に避難所へ連れていきますか？」など、災害時に起こりうる状況を想定した問題に対し「Yes」「No」で答えます。決して正解はない問題。しかし、とっさの判断が生死を分けるかもしれない。「そもそも避難所に犬を連れて行っていいの？」などの疑問も、講師の意見を元にひも解いていきます。子どもも大人も真剣に考え、自分の意見を伝え合う時間となりました。



クロスロードの後は、避難所体験。ある物だけ、決められた場所で寝床を作ります。ダンボールやブルーシートなど、限られた材料をどのような形で、どう使うと効率的か。家族内で、班の中で相談をしながら協力して作っていきます。中には、テープをなるべく使わずに作ろうと、ダンボールで柱を作る班も！荷物を置きや表札を作ったりと、より快適に過ごすための工夫をこらしながら完成しました。



夕食は、お湯を注ぐだけで熱々ご飯ができて、アルファ米と豚汁、さば缶、りんごで炊き出しです。災害時、水は貴重になるので洗剤が出ないよう、ラップをかけたお皿の上に盛り付け、汚れないようにします。アルファ米を食べて「おいしい!」「炊きたてのご飯みたい」といった感想が聞こえてきました。



夕食の後は、お風呂に入り、フリータイム。災害時に役立つアイテムを作成しました。新聞紙で作る『新聞紙スリッパ』は、ガラスが飛び散った室内や、汚れた場所を歩くために役立ちます。ゴミ袋で作る『ビニールカップ』は、災害時だけでなく、普段の生活の中での活用術も伝授。家族で楽しみながら作り、子ども達は完成したアイテムをさっそく身に付け、嬉しそうな様子! 日常でも活かしていける技を習得しました。



そして、みんな揃って「おやすみなさい」。寝る時間も同じでなければ物音や明るさが気になって眠れません。

2日目の朝を迎え、寝てみての感想を聞いてみると…「体が痛い…」「意外と小さな物音が気になった!」「予想以上に眠れた」「実際の避難所だとこれが毎日かあ…」などなど、思いおもいに色々感じた様子。朝食をしっかりと食べて、活動に備えます。食堂での朝食に、食べられることへのありがたみを感じる方もいました。



朝食の後は、片づけタイム! 自分たちで作った寝床を手際よく解体していきます。自分の家が終わったら、隣の家にも手を貸します。さらに、共有スペースを班ごとに手分けしてお掃除します。『助け合い』と『協力』が共同生活をする上での何より大切なこと。一つひとつの体験の中で、身をもって感じていきます。



お掃除の後は、サバイバルクッキング! 洗剤をなるべく出さず、包丁も使わない災害時に活かせるクッキング。メニューはカレーライスと乾物で作る和え物、スープ。カレーは、ジップロックへ材料を全て入れ、ご飯はハイゼックスという湯煎専用の袋にお米と水を入れ、共に沸騰したお湯が入った鍋へ投入! 食材が袋に入っているため、鍋が汚れません。さらに、お湯は洗剤へ活用ができます。スープ作りはバーナーでお湯沸かし。キャンプの時ならず、災害時にも一家に一台あると便利なバーナー。実際に使ってみて「意外と簡単で便利!」という声もありました。ご飯が完成したら、班ごとに「いただきます!」。味は「おいしい!」と好評。



今回のキャンプを通して、災害に対し改めて考え、心構えを作る機会となりました。また、災害時には人々との繋がりが大切になるということも実体験しました。いつ起こるか分からないからこそ、物も心も『常に備えよ』。災害時に対する知識や準備など、改めて考えるきっかけの2日間となりました。 文責: 多田(らん)